

M. モイーズ「24  
の小メロディと変奏曲の練習方法」：  
フルート基礎練習の考察と実践

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2021-02-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡部, 亨, Watanabe, Toru メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://senzoku.repo.nii.ac.jp/records/1941">https://senzoku.repo.nii.ac.jp/records/1941</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# M. モイーズ 「24の小メロディと変奏曲の練習方法」

## —フルート基礎練習の考察と実践—

Exercise of 24 Little Melodic Studies with Variations for Flute  
—A Study and Practice of Basic Flute Etude—

渡 部 亨  
Toru Watanabe

### 1. はじめに

フルートを学び始めた初中級者に是非取り上げてほしい練習曲として、20世紀最大のフルーティスト・教育者マルセル・モイーズ (Marcel Moyse, 1889-1984) (以下モイーズ) の著した練習曲を推薦したい。その主な練習曲から「24の旋律的小練習曲と変奏」を取り上げる。

この練習曲は1970年代の東京藝術大学音楽学部器楽科フルート入学試験1次実技試験の課題として毎年変更して指定されていた課題曲である。その24曲すべてが課題範囲となり、その技術グレードは比較的易しい (Alphonse Leduc 社では初級ランク) が試験当日指定され、正確な演奏を要求されるプレッシャーのかかる課題であった。東京藝大の入試課題には他に長調・短調の音階 (当日指定)、他の練習曲 (Ernesto Koehler 35 Exercises より1・2巻から当日指定) もあり、ピアノの単音を聴音して即座に演奏する聴音課題、そして2次実技試験では「無伴奏曲 (J.&F. Donjon Etudes de salon pour Flute) から自由に1曲を選択し無伴奏で演奏 (暗譜) する」という入試課題であった。その後、時代とともに入学試験は変更され、現在は難易度を上げている。

冒頭に記したようにモイーズが作曲したこの24曲の旋律的小練習曲を学習することは、フルートを演奏するうえで必要な「技術」「歌い方」「音楽性」を習得するために欠かせない。

### 2. モイーズの生涯と足跡

モイーズは1889年、フランスのジュラ県サンタムールに生まれた。14歳でパリ高等音楽院に入学しポール・タファネル (1844-1908) に師事し3年後に首席で卒業する。さらにフィリップ・ゴーパール (1879-1941) にも師事した。

演奏家としては20世紀最大のフルーティストとして、フランスフルート奏法の体現者として世界中に大きな影響を与えた。パリ高等音楽院卒業後はパドルー管弦楽団・パリ音楽院管弦楽団首席奏者を務め、1913年からパリ・コミック座、1922年からはストララム管弦楽団の首席奏者を歴任した。1932

年から1940年までパリ高等音楽院教授を、1946年から1948年までジュネーブ・コンセルヴァトワール教授を務めた。その後はスイス、アメリカ、イギリス、日本でも教育活動を行った。1984年アメリカ、ヴァーモント州ブラトルボロで生涯を閉じた。教育者としての功績も計り知れず、有名なフルーティストと教育者をたくさん育てた。フルーティストの聖書と呼ばれる「ソノリテについて」などたくさんさんの教則本や練習曲の校訂も行っている。

### 3. 24の旋律的小練習曲と変奏

東京藝大教授であった吉田雅夫は、筆者が受験のためレッスンを受講した折に、毎回「フルートで音楽を演奏する事、モイーズ先生はいつも生きている音を要求された」と話しモイーズのソノリテの演奏録音を聴かせた。

SPレコードからCDに平成3年に編集された「巨匠マルセル・モイーズ大全集」の吉田氏の解説文冒頭に以下のように記されている。(引用：CD-MGCD-1001 解説 - 吉田雅夫 p.15)

「最初にお断りしておきますが、演奏や音楽を言葉で表現するのは、大変難しいし、同時に、大変危険であるということです。例えば、私がこのモイーズ先生の24、25 Melodious Studiesを生徒に教えるとき、同じ曲でも生徒に言うことは全然違うと言う事があります。ですから、できるだけ共通した問題を、あえてお話しします。モイーズ先生の奏法と音楽の作り方は、大体24 Smsll Melodious Studiesと25 Melodious Studiesは重要な教則本であります。もう一つ頭に入れておいて頂きたいのは、モイーズ先生は24でも25でも、どんなにやさしい曲でも、音楽から命がなくなっただめですよ、ということ、いつでも言っています。いつでも喜びを持って演奏してください。」

演奏において以下の点に注目する。調性については1番 C-Dur、2番 a-moll、3番 F-Dur、4番 d-moll・・・23番 G-Dur、24番 e-mollと順に並び24全調を学習することができる。テンポ(速度)メトロノームでは指定されていないが、変奏曲ではテンポを意識することでプレスやフレーズをコントロールさせるように書かれている。強弱のアゴーギクは拍子やリズム・テンポによってコントロールがなされる。クレッシェンド・デクレッシェンドをどのようなバランスで行うかを考える。調性によっては初心者にとって指使いが困難な曲も収録されており、ある程度の技術を会得した者も再訓練できる。表現方法は「歌うように」「軽やかに」「はっきりと」など演奏部によってポイントを加える。

それでは、「24の旋律的小練習曲と変奏」の各曲について、譜例とともに演奏上のポイントを述べていきたい。

#### 第1番 C-dur 4/4 Andante

**主題：**この曲で注目しなければならないのはモイーズ自身が「祈りの曲」と話している点である。

2-2-4小節のフレーズを考え、小山を上って下り、二つ目の小山をまた上って下りる。そして三つ目

の小山を上って山頂でその景色を暫し楽しみながら下りること。再びこれを繰り返す最後の最後にエンディングを迎えるイメージで。



**変奏：**8分音符ひとつひとつのタンギングを、1回目は舌を外に出すようにはっきりと強弱の変化に合わせて吹く。2回目は舌を上の前歯の裏に軽く当てるタンギングで音色を丸くするイメージで演奏する。スラーが全体についているので、できるだけ音と音の間を切れ目のない瞬間的につながる音を意識できると良い。



### 第2番 a-moll 3/4 Andantino

**主題：**3拍子、Andantinoであるので1番より少し速めに演奏すること。風船が次第に大きく膨らみそれが自然に縮んでいく様を表す。2-2-4小節のフレーズで演奏する。最後の小節のe-eのオクターブ下降は慎重に。



**変奏：**速い3連符での均質な同音タンギングが必要である。舌の動きがスムーズになるようにフルートを構えない状態で何度か舌の動きを確認する。この変奏も主題同様スラーの中で響きが途切れないように楽器の響きを意識して演奏すること。



### 第3番 F-Dur 3/4 Allegretto

**主題：**森の中で聞こえるカッコウが何羽か呼び合って鳴き合っているように。スタッカート4分音符と2分音符を6小節演奏し続け、2小節スラーでまとめる。2回目はさらにクレッシェンドをしてpからfへ移行する。



**変奏 1:** スタッカートをついた4分音符を3連音へ移行する。スタッカートを滑らかな音へ移行するが、2分音符の豊かさは失わないで演奏する。



**変奏 2:** 9/8 Allegretto 3連符3拍での連続演奏。2・3拍目の頭の音はテーマを意識して演奏すること。軽いアタックを加え「3拍子」の踊りを意識した演奏を心掛ける。



#### 第4番 d-moll 3/4 Andantino

**主題:** 4小節フレーズで2小節にまたがったスラーの中でメゾ・スタッカートを意識する。導音 cis が2回奏されるが6小節目は少し軽めに2回目は和音に注意する。音を切りすぎず、4分音符以上はヴィヴラートをかけてもよい。初めのd音と終わりのd音の音程が下がらないように注意する。最後の小節は十分に響きを最後まで持続させること。



**変奏:** 主題のメロディに沿ったオクターヴ跳躍進行で上行時に息のスピードを落とさずにデクレッシェンドを行う。アンブシュール (emboucher) に気を付け、3オクターヴまでの音程に細心の注意を払うこと。特に中音 cis.d.e.f音と高音 cis.d.d.f.の跳躍音程に注意すること。



#### 第5番 B-Dur 6/8 拍子 Allegro

四

**主題:** すべての音符にスタッカートが記されている。軽快なアタックで音価をしっかりと表現し4小節1フレーズになるようにアウトタクトをしっかりと感じる演奏をすること。

3拍目→4拍目、6拍目→1拍目の2回の三拍子を意識しながら8小節まとめる。あまり音量は大きくせず響きを十分に持たせること。



**変奏：**はっきりとしたスタッカートでテンポを落とさず軽快に吹き切る。主題とは異なり8小節単位で素早いブレスを取り、推進力を失わないこと。指の動きとタンギングの一致に注意すること。



**第6番 g-moll 4/4 Andante**

**主題：**アウフタクト4拍目に16分音符で歌を歌う、5.6.7小節目では3拍目に付点音符によりさらに歌を歌うこと。6~8小節は息で演奏できるようタイや2小節のスラーを意識したブレスコントロールが求められる。8小節目のd-dのオクターヴ上行は音程に十分注意する。9小節目以降最後で1オクターヴ上の音域で演奏されるが表記のように *pp* で始め *mf* より音量を大きく演奏しない。13小節目以降はタイを十分に意識し、終わりの2小節は必要以上のリタルダンドは行わない。



**第7番 Es-Dur 3/4 Allegro**

**主題：***mf* で始まるが低音域を十分に響く音で始めること。2-2-4小節のフレーズを考える。常にハーモニーを意識する。中音 es 音は主音であるので音質が籠らないようアンブシュールに注意する。



**変奏1：**9/8 Allegro 3/4 を9/8に置き換え、主題を付点8分音符-16分音符-8分音符のリズムで演奏する。付点音符を十分にはっきりとテヌートし響きを作ること。残りの2音のスタッカートのタンギングは上前歯の先に当たるように軽快に演奏する。



**変奏2：**変奏1同様、主題を分割した8分音符-付点8分音符-16分音符の連続である。変奏1と同じテヌートが2拍目と5拍目にあるのでそこは重くならない程度に圧力を加えて響きを保持すること。テヌートを重く引っ張ると粘りが強くなり、次の16分・8分音符のスタッカートを軽くできないので注意して奏すること。変奏1同様に4小節1ブレスを行い4-4小節の8小節フレーズを作る。



**第8番 c-moll 3/4 Andante**

**主題：***pp* から2小節単位で進行し、2-2-4小節のフレーズを考え8小節フレーズを作る。ブレスも4小節で計画的に吸うこと。スラーの中で小節をまたぐ同音は軽くアタックをして芯のある音色にするこ

と。あまりヴィヴァラートに頼らないしっかりとした音色を作る。



**変奏1**：9/8 Un poco più vivace 3拍子を意識し、2小節フレーズで小ブレスを取る。すべてトリル・3音・アルペジオでの繰り返しなので、指の上げ下げにストレスがかかる。特に左右の指の動きで音量までバランスよくスムーズに演奏する。付点練習やスラー・スタッカートを混成したリズム練習をすること。



**変奏2**：3/4 Allegro 変奏1よりさらに細かい16分音符による指の技術を習得しストレスのない演奏にすること。1-2小節目と9-10小節目が同じフレーズであるが、3小節目と11小節目では進行方向が違う点に注意する。13小節のクレッシェンドをしっかりと14小節目の頂点、最高音g音の響きが十分に保てるくらいの余裕が必要である。



## 第9番 As-Dur 4/4 Andantino

**主題**：ben cantato と記され、4分音符を8分複付点音符と32分音符に切り分けて演奏する。32分音符はスタッカートなので前の音を持続しすぎるとスタッカートの準備ができなくなり、はっきりしない音になるので注意が必要である。



六

**変奏1**：3/4 Allegro 8分音符2連の音型。アクセントを拍頭（表拍）につけ裏拍へ向かって滑らかに音をスライドする。裏拍を抜きすぎると中が空洞のバケツのようになってしまうので裏拍を鳴らしてから抜くようにする。



**変奏2**：2/4 Allegro ben accent 8分音符2連だがスラーが逆転し裏拍→表拍の連続となる。変奏1とは逆の奏法となり、必ずスラーの頭（裏拍）にアクセントをつけること。2拍子なのでスラーの後ろが音量的に抜けないようにしないとメロディラインが聞こえず表現がはっきりしなくなってしまう。



**第10番 f-moll 12/8 Lento martellato e sostenuto**

**主題**：sonoramente 響き渡ってと表示されている楽器低音域を鳴らすための絶好の曲。ヴィヴラートをコントロールして低音の幅を十分に広げること。ヴィヴラート練習は最初音ヴィヴラートで始めメトロノームを♩=90位に三連符の幅で入れる。14小節目は6拍目の後でプレスをする。



**変奏1**：Lento martellato e molto sostenuto と記され8分音符6個が同音で奏される。Martellatoは槌打つようにという事で、主題同様 sonoramente とあり一つ一つの音に神経が張り詰めた良い響きができるように。美しい響きというよりも迫力のある音が出せるように息をコントロールすること。低音のアタックの質に十分配慮しソノリテの「アタックと音の連結」の復習がされるように。



**変奏2**：4/4 Lento sonoro seconda nota p (2番目の音を注意して響かせて) とあるようにスラーで上行して収める8分音符裏拍を抜かない奏法。オクターヴの跳躍であるので指の移動、アンブシュールの動き、腹圧の移動を何度も繰り返して練習し会得すること。また、息のスピードによる跳躍も練習すること。音程の維持は下あごの前後の運びが意識してできるようになるとよりスムーズに行える。



七

**第11番 Des-Dur 6/4 Lento**

**主題**：10番同様fで十分に響き渡る音で2小節を大きなフレーズで奏する。





**変奏1:** 4/4 9 番変奏2と同様に奏する。5小節目からは *p* で開始するがクレッシェンドを行い最後は *f* で終わってもよい。(変奏2はそのように表記されている)



**変奏2:** 12/8 Andantino 8分音符3連の連続であるが最初の音にテヌートがついている。少し長めに吹き後ろの2音目を均等に吹く少しいびつな形に奏する。変奏1で述べたが5小節目で *p* に落とし次第にクレッシェンドを強めしっかりとした *d* 音で終始する。



**第12番 b-moll 3/4 Allegretto**

**主題:** leggiero *p* から始まる軽いスタッカート連続であるが3拍子の2音同音間跳躍が行われる。均質な音色は上質な舌のアタックにより作成される。息のスピードやアンブシュールの統制により導かれるのでコントロールできるまではゆっくり演奏して自己の音質を聴くこと。



**第13番 Fis-Dur 4/4 Lento e ben legato**

注にあるが、この3曲はそれぞれを *pp*、*p*、*mf*、*f* で練習すること。

**主題:** 8分音符の連続するメロディ、音程のつかみ方が難しいので運指では音階とハーモニーを把握しながら練習すること。この調性はフルートにとって特に *pp* と *f* ではかなり音色が異なって聴こえるので慎重に繰り返して奏する。



**第13番 bis:** 変奏ではなく13番の2曲目と表題にある。主題のメロディとはハーモニーが同じであるが2小節を1・3・1拍で並べると fis・ais・cis、次は gis・h・dis のハーモニーで歌う。後半も同様に fis・ais・cis、そして dis・h・gis・fis (終止)



**13番 ter:** 3曲目は初級者にとってアンブシュールと運指が最大の難所となる。特に冒頭1拍目 fis → (スラー) cis と7小節目1拍目 e → (スラー) cis は注意して確実に音が持続されるように繰り返し確認すること。



### 第14番 dis-moll 3/4 Allegro

**主題：**テンポは速めに *mf* でボリュームを保つこと。13番同様8分音符の分割連続の曲。冒頭の8分音符にテヌートを付けてメロディラインを意識して演奏する。上行形が連続する小節後半の3つの音がトリルの形で動くので印象的に演奏するが強く奏しすぎないように。



**14番 bis：**上記と同様に演奏するが下降形が連続するので *mf* の音量を落とさないように息のスピード、量を減らさないように。fisis、gisis、cisis ダブル#がついている運指の連続には響きを持続させにくいので十分に楽器を鳴らすことと音程に注意する。



### 第15番 H-Dur 9/8 Allegro

**主題：**すべてスタッカートを付けた8分音符で小節冒頭にアクセントをつける。プレスと息の分量に十分留意し、8小節目と最終小節の付点2分音符+付点4分音符の長音（ロングトーン）につながるように訓練が必要である。自己のプレス力やアタック（スタッカート）のスピード・圧力を確実にしこのフレーズ最後の長音まで繋げる。Gis-moll に転調するが響きを保ちながら H-Dur へと持続させる。



**変奏1：**3/4 4+4小節の8小節フレーズでプレスを取る。8分音符+16分音符・16分音符の組み合わせの連続、小節冒頭の8分音符にはアクセントをつける。3-4小節間は下降形が続くので音量と店舗を落とさずに5小節目冒頭8分音符まで一息で演奏する。その8分音符を吹き、素早くプレスを取り後半部へ進む。gis-moll に転調し、音符間 fisis-ais-cis や dis-fis-h-dis など難しい運指が続くので確実に動かす練習をすること。



**変奏 2:** 上記変奏の逆のリズムパターンであるが16分音符拍頭にはっきりとアクセントを付け、他の16分音符、8分音符にはスタッカートを付ける。後ろの8分音符との音量のバランスに注意して均等なバランス演奏を心掛ける。フレーズの終わりでテンポはあまり緩まないように注意すること。



### 第16番 gis-moll 12/8 Allegro

**主題:** 2小節ごとに  $mf \rightarrow f \rightarrow mf$  を4小節目まで2回繰り返して5小節目からは  $f$  で3小節間これを維持し8小節目で decrescendo する。それぞれの3連符ごとにスラーをつけて演奏する。

後半もこれを繰り返す。臨時記号、特にダブル#に注意する。(fisis と eisis)



**変奏:** ここでこの練習曲最大の訓練を必要とする低音での連続スタッカートを経験する。

最低音 cis ではアクセントとアタックを良質に保つ。この場合舌はあまり外に出さず、上顎、上の前歯に軽く当てるイメージで「軽く速く」舌を突くイメージで演奏する。gis ais cis など響きにくい音は単音の充実を図る。

変奏 (リズム変更) 上記の逆パターンで冒頭の16分音符にアクセントをつけ3拍目の8分音符にはアクセントがつかないがテヌートにならないように注意する。楽器の調整のよし悪しが出てしまう可能性がある。調整をきちんと行っただうえで練習すること。



### 第17番 E-Dur 4/4 Allegro vivo

**主題:** 半音進行 (クロマチック) の練習曲。すべて  $f$  でソステヌートと表記されている。音色を考慮しながら決して雑な響きを出さないで16分音符連続3拍を上行形・下降形を演奏する。1オクターヴ上下行を1小節で演奏するが4拍目の4分音符で安心して急に音量を強めたり、音程を下げたり、上

ずったりしないよう和音を感じる。終わり2小節で *f* から *pp* まで下降するが最終小節への入り方は慎重に。



### 第18番 cis-moll 4/4 Allegro molto staccato

**主題：**すべて8分音符 *f* でスタッカートで演奏する。最低音の cis dis e 音をしっかり発音する。1音1音を確実に発音し、音と音の間に空間を入れて練習し徐々にその間を詰める。最低音では少し音が割れて「下品」な音が鳴ってもよいためあまり舌を使わずに息の力で奏してみる。十分に演奏可能になったなら、ダブルタンギング、トリプルタンギングで演奏する。ダブルタンギングは「tuku-tuku」「teke-teke」「kutu-kutu」「dere-dere」など様々な舌を軽やかにした動かし方を訓練する。トリプルタンギングは「tukutu-tukutu」「tutuku-tutuku」「kututu-kututu」「kutuku-kutuku」など工夫してスピードと発音の確率を上げ自己の得意なタンギング方法を取得すること。



### 第19番 A-Dur 3/4 Andante quasi allegretto

**主題：**本編1・2番のようなゆったりとした曲、しかし確実なレガートをもって演奏する、和音とアゴギクによる強弱の変化をつける。*p* での歌い方を十分にできるように。



**変奏1：**ターンの練習で譜例のように演奏するが注意書きにあるように音量音色を十分に保ちながら歌うようにターンを行う。主題同様4小節フレーズでの強弱をつける。次第に発展させながら展開部へと前へ前へと進む。展開部が終了して再現部では落ち着いて繰り返しターンの運指に注意を払う。

**変奏2：**トリルから後打音の練習で、トリル始まりの音は少しテヌートして動き出しは音程がはっきりと正確に演奏して後打音につなげ、3拍目をしっかりスラーの中で発音する。フレーズや音楽の進行は変奏1同様に行う。特に cis-d のトリルにはトリルキイを用いるが自己の楽器のトリルキイ使用時の音程に注意する。音程がしっかりとれるようになったらトリルの速度を上げること。

Allegro moderato

1a  
Variazione *p* *cresc.* *p*

2a  
Variazione *p* *cresc.*

### 第20番 fis-moll 9/8 Andante

**主題：**【♭-♭-♭】音符の連続フレーズ。Fis-mollの主和音を分散和音で音型に注意して2小節ずつフレーズを取りつつ、ハーモニーを変えながら進行する。導音であるeisに十分に意識しつつ、音色に注意しながらレガートを心掛けて一気に表現する。

Andantino

*p comodo ben legato e ben cantato*

**変奏1：**【♭-♭-♭】音符の連続フレーズ。音はテーマと同じで音でリズムが変更される。終わりから2小節前の16分音符fis-cisの2オクターヴ跳躍が難しいので何度も練習しアンブシャーをしっかりとさせ音程を確定させる。

1a  
Variazione *p comodo ben legato e ben cantato*

**変奏2：**【♭-♭-♭】音符の連続フレーズ。これも変奏1同様にテーマと同じ音でリズムを変更。3・6・9拍目にあたる16分音符の支えを短くしないこと。変奏1で難しい最後のfis-cisの跳躍は8分音符なので余裕をもって奏する。

2a  
Variazione *p comodo ben legato e ben cantato*

### 第21番 D-Dur 7/4 Allegro

**主題：**1拍を5連符で形成し7拍子を*mf*でバランスよく演奏する。均等にターンを繰り返しメロディはD-Durのアルペジオで1小節毎にD-Fis-A・H-D-Fis・A-Cis-E-Gを2回繰り返す。5連符で1拍を支配するが運指に注意しスムーズにターンできるように特に注意する。3連音を2つ並べ例えば

d-e-d d-cis-d fis-g-fis fis-eis-fis・・・と練習して運指を確認するのも練習方法として良い。



## 第22番 h-moll 4/4 Allegro moderato

**主題：**シンコペーションの練習曲。4分音符につけられたアクセントとそれ以外のスタッカートの違いを明確にする。Pから始まるが、初めはスタッカートやアクセントをはっきりと奏するために少し大きめの音量 *mf* くらいが望ましい。



**変奏1：**主題の冒頭の8分音符と最後の8分音符を16分音符3連音で素早く演奏する。決してシンコペーションリズムとテンポが遅くならないように注意する。初級者にとってリズムの難易度が非常に高く、表現力も必要となる。



**変奏2：**さらに冒頭に16分音符3連符を加えることで、運指の難易度を上げている。変奏1と共通してD-Cis-Dの運指時に右手の指を抑えたまま左指のみの開閉で対応する替え指を使用してもよい。楽器も不安定にならず音色も音程も安定する。



## 第23番 G-Dur 4/4 Lento

**主題：**この曲もG-Durのアルペジオの上行の練習から始めること。8分音符の後の32分音符4連音はあまり音量を出さずに速やかにメロディに移行する。ビネール（二元）とは2進法で進行することの意味である。拍裏の細かい音符をまるで指揮者の回す掌の中で音を転がすように奏したい。



**変奏1：**12/8に変更し、主題で32分4連音の部分を16分4連音の連続にして柔らかく優しく歌うこと。8小節フレーズで流れるように。テルネール（三元）つまり三拍子を意識した演奏を行う。



**変奏 2:** 主題のリズム音型の逆のパターンで、突っ込んでしまうと後ろの8分音符が短くなったり、長く重くなったりするので等分になるように。6小節目最後の e-fis-e-dis-e のクロスフィンガリングの運指に注意する事。また各グループの8分音符をしっかり鳴らすが決してぶつけた濁った音色にならないように、またおなかで支え音を切るように。

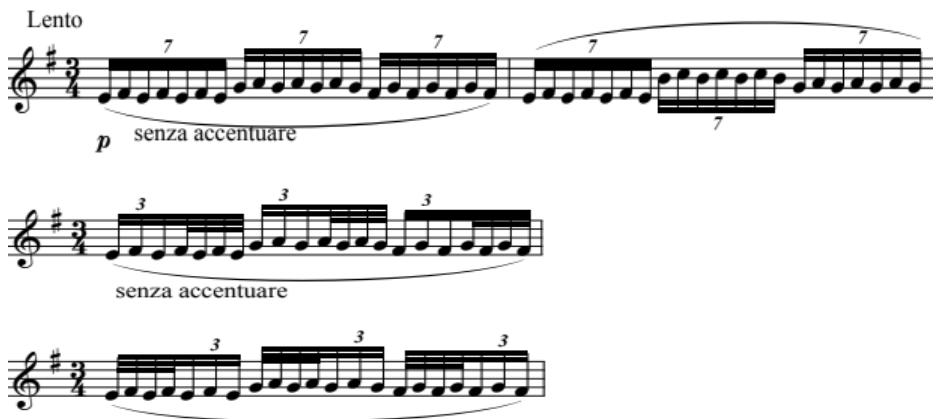


**変奏 3:** 変奏 1 のリズム音型の逆のパターン。これも変奏 1.3 より少し優しい運指となる。



#### 第 24 番 e-moll 3/4 Lento

7 連音符で奏でられるのは 2 番 a-moll のメロディである。7 連音をスムーズに演奏することは当たり前前で 2 番の曲想を思い出し復習してから演奏する。練習方法として譜例が 2 つ《3 連+4 連》と《4 連+3 連》記されているので 7 連音を均等にすることは大事であるがこの形でも練習すること。



#### 4. まとめ

フルートの基礎練習曲としてこの練習曲全 24 曲を練習、演奏するためのポイントを記述した。これにより私がこれまで指導してきた、初級者の小学生・中学生・高校生では演奏法と曲想を十分に会得す

ることができた。大学生、大学院生においては将来指導をする場合、演奏技術のポイントを会得させることに役立つことが実証できた。特に本研究ノート冒頭に示した以下の4つのポイントに注意して教えることが進歩につながった。

- 全ての調性で運指が正確に運べる。
- 各曲のテンポを意識してメトロノームを用いて正確に演奏できる。
- 強弱のアゴーギクを十分に表現することができる。
- 自分の感情表現や音質表現を伝えることができる。

この練習曲は「24の小さなメロディ練習曲」と題されているが、多種多様な時代や形式そして編成規模のフルート楽曲を学ぶ初期の練習曲として適当である。更にこの一つ上級の「25のメロディと変奏練習曲」は、より必要な「ダブルタンギング」「トリプルタンギング」「付点」「複付点」など中級の技術練習が会得できる。パリ音楽院の歴代教授によるフルート教則本「アルテス教本1・2・3巻」「タファネル&ゴーベール教本」と同時にこの2冊の練習曲で基本的な技術を取得させる。これらの教則本より難易度の高いE. ケーラー、J. アンデルセン、T. ベーム等のエチュードを取得させることによって、学習者のフルート音楽の世界が独奏・室内楽・管弦楽・吹奏楽と広がって行き、たくさんの素晴らしい楽曲演奏への足掛かりとなるよう、今後更に指導法を研究したい。

**参考文献：**

- Alphonse Leduc & Cte 1932 24 PETITES ETUDES MELODIQUES AVEC VARIATIONS (FACILE) pure Flûte
- Alphonse Leduc & Cte 1932 DE LA SONORITÉ ART ET TECHNIQUES
- 巨匠マルセル・モイーズ大全集 (CD:MGCD-1001 1991年 解説 - 吉田雅夫)
- 「モイーズとの対話—おいたちと演奏論」高橋利夫著 2005年全音楽譜出版社 ISBN4118800918